

# 冒険しんぶん

2010/10/16

ピアノ発表会

第12版

発行・編集

ポコリーナ

ケンケン

今回はお母様との連弾でお馴染みのアシルさんです。以前開催されたコンサートのプログラムのプロフィールを拝見すると「横浜国際音楽コンクール連弾部門最高位」など

きらびやかな受賞歴が並んでいて目がくらみそうです。

そんなアシルさんにお仕事やピアノについてお聴きしてみました。

ニックネーム・アシルさん

「どんなお仕事をされていますか？」

小学校に入る際に受験がある幼稚園の子供たちのための幼児教室に勤めています。いわゆる「お受験」の塾で、幼稚園児をたくさんみています。

「お受験ですかー！私も小さい時やりましたが、どんなことをされているのでしょうか？」

面接、ペーパー試験、簡単な体操のテストなどがあるのでその対策をしたりします。

子供たちを見てみると、親御さんがどんな育て方をしているのかわかるかすぐにわかりますよ。

子供は嘘つかないですからね（笑）。

「親って大事なんですね・・・。アシルさんはお母様がピアノの先生だとお聴きました。小さい頃とか教えてもらっていましたか？」

それが、一回も習ったことがありません。スタートはヤマハのグループレッスンで幼稚園ぐらいから始めました。

「ピアノの先生って自分の子供は教えないって言いますしね。」

ヤマハの後は個人の先生に習われたのですか？」

近所の先生のところに通いました。遠くからも生徒さんが来る割と本格的なお教室でした。そこでは2階がホールになっていてソルフェージュとリトミックのグループレッスンも、もれなくセットになっていました。

ピアノよりもリトミックがとても面白かったです。

「リトミックってどういうものでしょう？」

ピアノなどのレッスンの場合は楽譜どおりに音を弾くことが求められるのですが、リトミックは自分が音楽を通してどういう表現をしたいか、というレッスンです。

幼児期に盛んなイメージがありますが、例えば中学生ぐらいになった時にバッハのインベンションを取り上げたりしましたよ。

「インベンションですかー！どんな感じになるのでしょうか？」

第一番だったら、「ドレミファレミド ソ」で最初始まりますよね？

この「ソ」(Gの音)に音が上がる時の音程をどう表現するの？とか考えたり表現したりします。

和音が変わったら、当然表現も変えたりしますよね、そういう音楽や曲について分析とつか、いろいろアプローチするんです。

「面白いですね、初めて知りました！」

他にもバッハだったら2人組になって「右手担当」「左手担当」とか担当を決めて動きを考えて、最後に発表したりし



- 主催されたコンサートのプログラムの表紙だそうです -

ます。

他のペアが、自分が考えつかなかった解釈をした時はちょっと悔しかったりしました

(笑)。

「それであんなに表情豊かな演奏をされるのですね、納得です」。

大学は、小学校の文集に「将来はリトミックの先生になりたい」って書いたぐらいでしたので、幼児教育の学べるところに進学しました。

今は母のピアノ教室にくる生徒さんにも少しリトミックを教えたりしています。

「小学校の時のやりたいことを今もされていてすごいですね！」

ところで連弾はどれぐらい前からされていたのですか？

10年ぐらい前です。私が当時同級生と連弾をやっていた、母に練習をみてもらったのがきっかけでした。友達のパートを母が練習用で弾いてくれた事があって、それが意表を付いてすごく良い演奏になり「これだ！」って思っ(笑)。

コンクールを受ける予定だったので、友達と私、母と私の演奏をそれぞれ録音してテープを送ったのですが、審査が通過したのは母との連弾の方でした。

「それはすごいですね！」

いつもケンカばかりしていませんよ(笑)。

お互い真剣だからだと思おうのですが。

でも練習した後は普通に笑ってご飯作ってます。

「コンクールなどでは受賞もよくされていますよね。すごい！」

いえいえ。目標があるので努力しやすいのもあります。

最近のコンクールでよく覚えているのはイタリアのコンクールで、ちょっと郊外での開催だった為に英語も通じず、イタリア語だけの中で演奏してきました。

「国際コンクールなのに英語が通じないんですね・・・」

本当はイタリア語がわかる人と行動するはずだったんですけども(苦笑)。

連弾部門で3位になり外国人の部門では1位になったのですが、全部イタリア語で話されたので最初はちんぷんかんぷんでしたし、受賞式の時も自分たちがいつ呼ばれたのかも判りませんでした。

辞書片手にサバイバルな感じでした。

「そうでしたか。しかしそれ程の方たちが、普通にコミュニケーションにいらして下さってビックリです。」

いえいえ、とても練習になりますし刺激をもらえます。

自分で練習している時と、誰か一人でも聴いている時に演奏しているのは全然違います。

コミュニティに出ない時もプログラムを見て、

「あ、この人の曲をまた頑張ってる！」とかチェックしていますよ。

「それはなんだか嬉しいです。」

これからはコンクールをメインにするのではなく、コンサートなどを通して音楽を表現していきたいなと思っています。

いろいろ楽しんでいきたいですね。

「お忙しいところ、インタビューありがとうございます！」

### ◆ 編集後記 ◆

実はアシルさんは私の母校(小中高校)の先輩でいらしたこともあり、ピアノの話よりも昔の学校のことで盛り上がったっていました。

こんな素敵な先輩のお話をお聴きできて実に楽しいインタビューでした。

アシルさん、ありがとうございました♪

来月もお楽しみに！

